



平成29年10月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

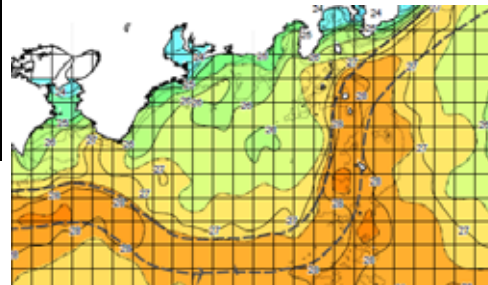
伊豆半島東岸定置網の漁海況予測と黒潮大蛇行

伊豆東岸定置網における平成29年下半期の漁海況

海況	黒潮は9～10月はB型、11月以降、C型基調で推移する。沿岸水温は9～10月はB型流路からの暖水波及により「高め」～「極めて高め」、11月以降は「平常並み」～「低め」で暖水波及時に「高め」。
マアジ	漁獲は前年に引き続き低調に推移。主体は体長20cm以下の0～1歳魚。
マサバ	ゴマサバに混じる程度。主体は体長28～30cmの2～3歳魚。
ゴマサバ	漁獲は前年を下回る。主体は体長30～35cmの2歳魚以上。
マイワシ	漁獲は前年を下回る。主体は体長10～15cmの0歳魚。
カタクチイワシ	漁獲は前年を上回る。体長9mm未満の未成魚主体に、9～11cmの小型成魚が混じる。
ブリ	漁獲は前年を上回る。いなだ・わかし銘柄主体。

解説：黒潮：日本列島の南岸に沿って北上し、房総半島沖を東に流れる暖流。大蛇行時は、遠州灘沖を大きく離れ、伊豆沖に流れ込む流路となる（右図）。

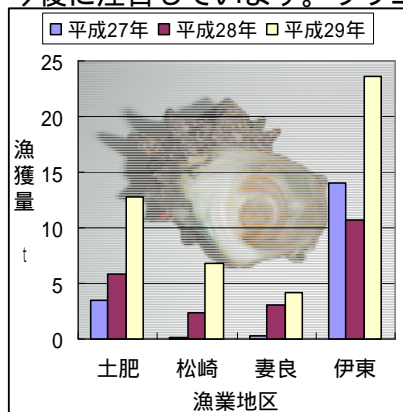
神奈川県水産技術センターと共同で、平成29年下半期（7～12月）の漁海況を予測しました。マアジは依然低調な漁獲が続くと思われませんが、ブリについては、資源が増加傾向で推移しており、好調な漁獲が期待されます。9月29日に気象庁・海上保安庁は黒潮は大蛇行していると発表しました。大蛇行が継続した場合、伊豆では海藻が枯れる「磯焼け」が発生する恐れがありますので、当



場では注視しています。カジメが枯れているなどの情報があればお知らせください。

サザエの豊漁

今年になり、伊豆で局地的にサザエの漁獲量が増えています。もともと、サザエは大発生により大きく変動する資源です。伊豆南部では平成22年に漁獲量のピークを示しその後減少していましたが、再び増えてきたようで、今後に注目しています。サザエは大発生した



資源を一気に獲るのではなく、海の中の銀行に預ける感覚で、大きくしながら徐々に獲っていく漁獲管理が資源の維持に重要です。

解説：サザエ：アワビと並ぶ磯に生息する巻貝の代表。殻には棘が、身の部分には蓋があるのが特徴だが、棘がないサザエもいる。県の漁業調整規則では蓋径3cm以下は獲ってはいけない。

畔志賀漁師塾が南伊豆を視察

三重県では漁業、漁村を活性化するため、漁協が漁業就労希望者の支援を行う「漁師塾」を開設しています。9月19日、主に磯根漁業を営んでいる畔志賀地区漁師塾の一行が視察研修の一環として、伊豆漁協南伊豆支所に訪れました。当场職員が「磯根資源の増殖」という題で話題提供を行い、南伊豆地区と畔志賀地区の漁業の現状について意見交換を行いました。その後、小稲イセエビ蓄養場に場所を移し、現地視察を行いました。



意見交換会の様子

研修生はイセエビの資源を有効に利用するためのすばらしい施設だと感想を述べていました。

10月の予定 フェリーを利用した西伊豆産水産物の静岡地区への試験流通を実施します。下田市白浜で漁業者と協力しながらテングサ漁場の雑藻刈りを行います。県東部漁業士と県行政との意見交換会が6日に東伊豆町で行われます。中旬に県調査船駿河丸を使用し、キンメ漁場のサメ調査を行います。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu